

令和 5 年度 園評価・関係者評価書

園名	加西市立泉よつばこども園
----	--------------

1. 教育・保育目標

『 自分らしく！ たくましく！ のびのびと！ 』・健康でたくましい子 ・よく遊び思いやりのある子 ・自分の思いが表現できる子
--

2. 本年度の重点目標

認め合い・伝え合い・励まし合い・共に育ち合う子どもをめざして ～「心が動く・体が動く」様々な体験を重ねながら 子どもの思いに寄り添う援助を考える～
--

3. 自己評価結果(達成状況)【 A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない 】

評価の観点	評価項目(取組内容)	評価	改善の方策
園 運 営	○職員の資質向上 ・実戦的指導力の向上 ・計画性のある研修の実施 ○園務分掌の適切な機能と責任体制の整備	B	・互いの保育を見せ合い、疑問点や課題点を共有しながら、保育を振り返り、見直し、解決の方法を探っていくことの重要性に気付くことができた。少人数での研修は意見が出しやすく、職員の底上げ、レベルアップにつながった。いろいろな意見や助言からは自身への学びとなり、保育の幅を広げることができた。次年度も自主的な研修を積極的に取り入れる。どの職員も参加しやすい日や時間を検討し、年間計画をより具体的に立てる。
教 育 課 程	○興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活の工夫 ○友達と十分にかかわって展開する生活の工夫 ○幼児の主体性を大切にした指導 ○幼児一人一人の発達の特性を踏まえた指導方法の工夫	A	・今年度取り組んだことや関わった姿を次年度の職員に引き継ぐとともに、実践し、職員間でその都度振り返り、それらを土台として各年齢のねらいや育ちの再確認、計画の再構成に努める。 ・子どもが興味関心を持ったことを遊びに取り入れ、試したり、考えたりして学びにつながる環境作り、発達段階を見極めながら歩行・言語・物の操作・感覚機能の完成等一人一人の育ちに合った環境作りや玩具の準備に努める。更には他クラスへの共有をし、広がりを持たせていく。
子 育 て 支 援	○「親と子の育ち合いの場」としての役割や機能の充実 ・未就園児や保護者への園庭開放 ・子育て相談、講座等の開催 ○一時預かり・延長保育の実施	B	・「よつぱこクラブ」では子育て相談や関わり方の手本になる等保育教諭の関わりも有意義な時間につながった。温かく迎え入れる園の雰囲気や大切に、育ち合いの場の役割を果たすべく引き続き取り組む。又、無理なく在園児も参加し、交流できる形を盛り込みながら事前の計画をしっかりと立てる。 ・延長保育、祖父母送迎で保護者と話す機会が少なく、保護者アンケートの意見も踏まえ、日頃から保護者と話す機会や時間を増やすとともに、メモ等も活用して保護者との連携を深めていくよう改善する。更に3学期にも子どもの成長を伝える場を設ける。
安 全 管 理	○園舎の安全安心確保 ・園舎や遊具の安全点検及び管理 ○職員の安全管理能力の向上 ・危機管理マニュアルの周知徹底と活用 ・防犯、防災訓練の実施 ○交通安全指導の推進 ○健康観察、疾病予防、健康診断の実施	B	・危険箇所、遊具の使い方、日頃の安全に対する指導、遊びの場での職員の立ち位置等気付いたことを朝夕の連絡会で伝え合い、全職員が周知するようにする。 ・安全点検を怠らず、日頃から危機管理マニュアルを確認する。 ・担任不在の場合の他職員との連携、役割分担も明確にしながら、様々な実際の状況を想定した避難訓練を実施していく。 ・感染状況を把握する為、職員室でも感染症ボードに記入し、誰もが確認できるようにする。
道 徳 ・ 人 権 教 育	○幼児の体験や経験を通した、人権意識や道徳性の芽生えの育成 ・命の大切さにふれる体験の重視 ・思いやりの心を育む環境の工夫 ・豊かな感性、様々な気づきを育む環境の工夫	B	・命の大切さ、思いやりの心を育む為の経験や体験、環境について話し合い、共通理解していく。 ・普段の言葉の使い方、園児への接し方、関わり方、指導の姿勢等振り返り、常に意識し、丁寧に対応するよう心掛ける。職員同士、気付きを伝え合うことを大切にし、互いの道徳・人権意識を高めていく。
特 別 支 援 教 育	○一人一人の特性や発達課題に応じた支援 ○専門医療、教育機関との連携 ○途切れない支援の推進 ・家庭との連携 ・小学校との連携	B	・部会で話し合ったこと、専門機関から得られた情報、児の様子等全職員で共有する場を作り、園全体で子どもの支援にあたる。 ・専門機関との連携は途切れることなく、手立てや有効なアドバイスをもらいながら、日々の支援につなげる。 ・トライアングルプロジェクトについて再確認し、保護者や事業所との連携を進めながら一人一人の支援を考えていく。
家 庭 ・ 地 域 ・ 他 校 種 と の 連 携	○信頼される園づくり ・情報の発信、受信 ・園行事への積極的な参加の推進 ○地域の特性に根ざした園づくり ・教育資源の活用(文化・人材・施設・自然) ○小・中の連携 ・互いの学びの場となる計画的な交流	A	・参観に加え、日頃の生活の様子を見てもらうよう、オープンスクール形式での参観や回数を増やしていく。 ・園だけではできない様々な文化に触れる機会を今後も計画し、地域で育つ子どもの育成につなげたい。 ・クラス便りは小サイズや書き方を工夫したことで作成時間が軽減され、タイムリーに発信することができた。保育の意図やねらいを適宜加えることも意識して伝えるようにする。動画配信においても、何を伝えたいかをしっかりと押さえながら、配信していく。 ・4小学校合同で年間計画を作成し、更に連携を進めていきたい。

4. 自己評価方法の適切さについての園関係者評価

・謙虚に且つ適切に評価されていると思います。 ・子ども達はいつ行っても楽しそうに活動している。子どもたちの笑顔を引き出すために先生たちはどうかかわっていくか、子どもを大事にした保育を探っていくよう今後も励んでいてもらいたい。 ・アンケートからもくみ取れるが、園を信頼し、子どもたちを預けられているということは本当に素晴らしいことです。自信をもって園運営にあたってほしい。

5. 評価の観点ごとの関係者評価

園自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価
・子どもは園から、「あきらめない気持ちが大事」など教わったことを引き続き生活の中でつなげていっている。又、できることが増え、成長を感じる。先生方の指導に感謝している。 ・園を信頼してもらえることが子どもの成長につながっていく。家庭や地域と連携を深めていくことが本当に大事です。
・保育とは教育であると感じている。先生たちが手を入れ、手立てをし、かわり、子どもを導いておられる。 ・体験学習等にも力を入れておられ、一人一人に合った保育は大事なことだと思います。子どもにとって大切な様々な体験をさせていただきたい。 ・職員同士の共通理解もとても大切で、時間が取れない中での難しさはあると思いますが、連携を積み重ねていてもらいたい。
・親から見えないところで生活しているので、保護者は不安でしかなく、心配が膨らむのであろう。保護者との信頼関係は小さなことから崩れることもあれば、育まれていることもあります。保護者への対応は個々でも多様。対応の仕方は難しいが、保護者の思いに寄り添い、特性にも配慮しながらこちら側のねらいや意図だけに終始せず、どのように知らせるのか、子どもの姿を見逃さず、丁寧に対応していくことが望めます。 ・一時保育や預かり保育はもちろん延長保育など、預ける側としては便利になっていますが、受け入れ側はかなり負担ではないかと心配しています。
・不審者対応や安全管理、又、感染症対策等隔々までの対応が要求される中、よくやっておられます。近年災害も多く、防災に力を入れ、安全安心につながる避難訓練を重ねていっておられます。日々の訓練で先生の指示を聞ける子、考えて行動できる子の育成につながり、有事の際には臨機応変に対処できる先生たちの為にもなっていることです。積み重ねていくことが大切です。特に不審者対応訓練においては低年齢の子どものいる園なので十分な配慮の上、行ってもらいたい。 ・生活の中で怪我やトラブルはあるだろうが、遊びや失敗の中で学んでいっていることを発信し、伝え方にも配慮しつつ、理解してもらう努力をしていくことが大切です。 ・言葉や考え方など長く一緒に生活している先生のもと、人格が作られていきます。人格形成を担っている存在であることを意識していくことが大切です。声掛け、関わりについてはどうだったか、どうしてそうなったのかなど内容や自らを振り返ること、そして身近な者同士で伝え合い、気付き合える職員関係を築いていくことも大切です。各々が自分磨きをし、人権・道徳意識を高めていくよう心掛けていきたいものです。
・近年、該当する子どもが増えてきているように思いますが、園全体で取り組んでいる様子が伝わってきており、感心しています。 ・支援児に対する指導、取り組みはきめ細かで、特性を十分理解し、集団での生活を支えていっています。専門機関の先生との連携は大事で、いろいろな知識をもらいながら支援に生かしてほしい。
・保育参観(特に保護者参加型の行事)においては、中には仕事の都合で参加が難しい保護者もあろうということもあり、いろいろと配慮することが出てくることだろう。 ・保育や園行事を多くの保護者に見ていただくのも一苦労だと思いますが、配信等、今だからこそ取り組みなどよくなされていると思います。 ・行事での様子を見てきました。しっかりと活動の意図をもってなされているからこそ、行き届き、子どもたちはいつも伸び伸びとしている。形やしつても大事ですが、子どもらしさが見られる発表であり、笑顔が見られるのが一番いい。子どもらしさの芽を摘み取ってしまうこのないよう、今後もし行事展開し、保育を探ってほしい。